

拙堂會報

第14号

2023年6月1日発行

発行所

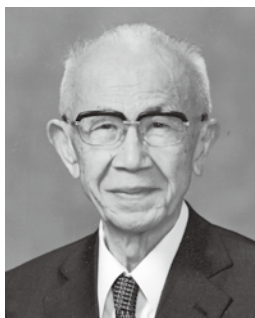
齋藤拙堂顕彰会

理事長 飯田 俊司

津市一身田豊野1406-197

日本人が棄てた美風

顧問 齋藤 正和



「なんば走り」だったからだという。

国民皆兵と学校教育により、歩き方すら江戸から明治にかけて変化した。西洋文明導入に伴う変化は枚挙にいとまが無い。その過程で江戸時代まで残っていた日本古来の文化の美風の多くが失われた。さらに、明治以降にも僅かに残っていた伝統文化も昭和二〇年の敗戦後、人々の劣等感とともに自身で、その良さを棄ててしまった。

私も老人の常として腰痛に悩んでいる。これを楽しむには「なんば歩き」がよいといわれる。右手と右足、左手と左足を同時に前に出す歩き方である。しかし、今の私には簡単にできない。だが、江戸時代までは普通だった。そもそも、武士の抜刀は「なんば」でないとできない。「江戸飛脚」が一日三百キロも走れたのは

江戸時代の武士には常に社会の指導者として日本人らしく立派に行動しなければならぬとの自戒があった。齋藤拙堂はある予言をしている。彼の『海防五策』に、「虜の施すところ偽りと雖も亦た恵みなり。虜の弘める所、邪と雖も亦た

教えなり。亦た迂直の計を知る者に似たり。我れ因循苟且、目前に従事して長久の慮りなくば其れ何を以て之に克たんや。」（下心のある外国人が我国人に施すものは偽りであても恩恵である。その外国人が弘めようとするものは邪悪な毒を含んだものであっても表面的には思想・学説である。彼等は回り道をする計略を知っているのである。我が方が古い習慣に拘ってぐずぐずし、目先のことにばかりに囚われて遠い将来を考えなければ、どうして外国の魔手に打ち勝つことができようか）とある。

拙堂はいう。外敵が武力で侵略してくる害は、文化的侵略より短期的で、むしろ小さい。外敵は毒のある思想や宗教を甘い恩恵に包んで持ち込み、我が国民を手なずける。気がついたときには我国はすっかり外敵の属国と化してしまう。これに対する警戒が最も重要で、為政者たる武士は日頃、酷な政治をして国民がそれを怨み、外敵の甘言に乗せられてしまふことのないよう注意することが最も肝要だと。

外国勢力の魔手だけでなく、彼等のもちこむ

日本人が棄てた美風	齋藤正和 1	第七回齋藤拙堂顕彰俳句・短歌	6
拙堂の人間像を学ぶ	加藤龍宗 2	第六回齋藤拙堂顕彰小中学生書道展	9
ままたらない釣り三昧	飯田俊司 3	第七回齋藤拙堂顕彰吟道大会開催	11
小津安二郎記念映画祭のご案内	志田行弘 3	拙堂顕彰会受賞の喜び	11
「東の良斎、西の拙堂」	森永昌雄 5	拙堂塾、特別企画、	
令和四年度齋藤拙堂顕彰出張講座	6	拙堂の足跡を訪ねて	13
令和五年度拙堂会総会報告			15

便利で派手なものに迷って我国従来の美風を棄てたものが数多い。今日、齋藤拙堂はその慧眼により我々現代人に多くの助言を遺してくれている。彼は単に高度な学者文人に止まらず深く大きい英知を備えていたと言ってよい。

拙堂の人間像を学ぶ

会長 加藤 龍宗



はるかなる東の空を夢にみつ

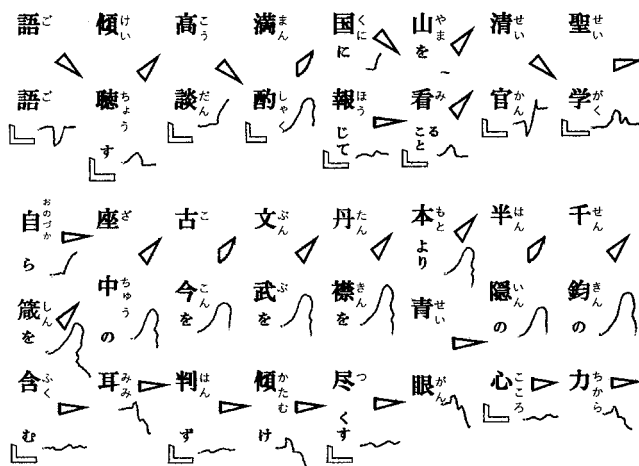
はかなく散りしもののふ恋し

令和五年を迎え、早半歳になろうとしている、新型コロナウイルスも落ち着き、社会は平常を取りもどしつつある、改めて平和のありがたさをしみじみ

と考える、阪神大震災より二十八年、東北大震災より十二年、トルコ・シリア大震災に地震災害の恐ろしさを垣間見、自然災害への備えの大切さを知らされた。四月二日久しぶりに靖国神社の能楽堂舞台に立ち、吟と舞の奉納を行う機会を得た、吟はともかく何十年ぶりに扇を手に舞に挑戦して、少しく緊張しながらも新鮮な気分にて、幾百万の神霊安かれと祈り舞うことができた。その朝国立千鳥ヶ淵霊園に参拝し、改めて父の瞑福を祈ることが出来たことが奉納成功の要因となったのかも知れない、この奉納が七

拙堂先生に呈す

江馬細香



十八年目の熱い夏の幕開けのスタートとなった。さて今回は拙堂を讃える詩を紹介しよう、この詩によって拙堂の人間像をよく理解していただけ、大垣の女流詩人江馬細香（一七八七～一八六一）の作である、細香は秀麗にして才女、彼の頼山陽も恋の虜にしたほどであった、江戸末期三女流の一人とされ、文壇を飾った、伊勢にも三度遊び、拙堂との交流を重ね、一八五七年拙堂は大垣を訪ね細香等大垣文人と交流した。その時の誌である。

熱い夏、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

学者として聖人の教え（儒学）を修め、その力には千鈞の重みがある。

清廉潔白な役人であられ半隠の別号の如く半ば隠者の心をもっておられる

青々とした山を看るときは喜ばしい青眼で向かわれ

国のために報いるにはまことの心を尽される

盃になみなみと好きな「文武」を注いで飲みほし（文武両道にわたって並みいる人を圧倒し）

立派な話しの中では縦横に古今の歴史を論じられた

一座の者はじっと耳を傾け

一語／＼に含まれる深い洞察といましめを胸に刻むことです。

ままならない釣り三昧

理事長 飯田 俊司



子供の時から魚釣りが好きだった。小学校三年生の時、近くの爆弾池(田や畑に落された爆弾跡の大きな穴に水が溜まった池)でフナ釣りを始めたのが最初。中学生になってからは伊勢湾の堤防や突堤でハゼやアイナメなどを釣った。社会人になってからは、主にチヌ狙いの筏釣り、また磯釣りでもグレを狙った。

この三十年間は主に沖釣りで、一年を通じて船上からいろいろな魚を釣ってきた。

有難いことに三重県の南東部はリアス式海岸で黒潮の影響もあって絶好の漁場と言える。

対象となる魚種は豊富で、四季を通じていろいろな異なる魚を釣ることが出来る。

私が釣りの対象とする魚は、二〜三月にメバル、三〜四月はアジ、四〜五月は、カサゴ、五

〜六月はイサキ、真鯛、七〜八月はスルメイカ、ハマチ、九月〜十二月は真鯛、太刀魚、ワラサなど、オフシーズンはなく年中釣りを楽しめた。狙う魚ごとに竿、針や糸などの仕掛け、餌などが違うので、どうしても釣り道具が増える。したがって今や我が家の応接室は釣り具部屋に化している。

現役時代は釣り行きの時間を作るのに苦労したが、四年前に退職して、さあこれから釣り三昧ができると期待したが、コロナ感染症の蔓延で予定が外れた。さらに深刻なのが、これまでよく釣れていた魚が釣れなくなったことだ。

メバル、アジ、イサキ、スルメイカは漁獲高が大幅に減少。馴染みの菅島の遊漁船もこれらを対象とする出漁を殆んど止めるか、減らした。また、太刀魚の餌となるサンマ、カサゴの餌となる鯖の漁獲量の減少、小型化のため、餌にするサイズのもものがこれまで通り手に入れ難くなった。

地球温暖化が人間や大気ばかりか海岸にも影響を及ぼしている。魚にとって海水温1℃の温度変化は人間にとって五〜十℃に匹敵すると言われるが、日本近海でここ一〇〇年間の平均海水温の上昇は一・二四℃。さらに海洋熱波(数日から数年にわたって急激に海水温が上昇する現象)の発生頻度が大幅に増加していることも加わって、高水温を嫌う魚がいなくなるのではないかと危惧される。一方でブリやサワラの分

布域が北上しているというプラス面も期待できる。

海水温の上昇傾向がこのまま進めば、折角の趣味も先細りになるのかと思う反面、高水温の好きな魚が南の海からやってきて、また釣りを楽しませてくれるのか、釣り三昧も地球温暖化への対応如何に左右されている。

.....

小津安二郎記念

映画祭のご案内

理事 志田 行弘



有史より伊勢の国、三重県は数多くの偉人、賢哲を生んでいます。江戸末期の教育界・文化人、経世家であった齋藤拙堂翁もその一人ですが、十九世紀末より米国のトーマス・エジソン発明による映画史上で世界を飾る一人に松阪市出身

の映画監督小津安二郎がいます。戦前の作品「生まれてはみたけれど」や戦後の「晩春」から麦秋、東京物語、早春、彼岸花、浮草、秋日和…そして遺作となった秋刀魚の味と作品を並べれば、誰もが小津監督を思い浮かべられることでしょう。

田中絹代、高峰秀子、岡田嘉子、原節子、杉村春子、東山千栄子、淡島千景、木暮実千代、香川京子、岸恵子、有馬稲子、山田五十鈴、久我美子、浪花千栄子、山本富士子、沢村貞子、京マチ子、若尾文子、司葉子、岡田茉莉子、望月優子、岩下志麻…とほぼ日本映画の代表的女優を総覧めに起用し、昭和二十年～三十年代の日本映画全盛期を内田吐夢、溝口健二、五所平之助、成瀬巳喜男、稲垣浩、黒澤明各監督らと支えた代表格です。

その小津さんは、明治三十六年十二月十二日生まれて、昭和三十八年十二月十二日ちょうど還暦のその日に黄泉の国へ旅立たれた稀なる人であることも有名な話ですが、残念なことに現在の若い人も一般の映画好きですら小津さんを知らない人が多くなっています。

でも海外では今も、世界の映画界、映画観客の間では「世界のOZU」は極めて有名な第一人者の一人なのです。英国映画協会発行の権威ある映画専門誌「サイト&サウンド」が十年に一度発表する世界中の有名監督三百五十余人に指名して選ばせる過去～現在総ての映画作品べ

スト・テンで十年前から昨年まで「東京物語」が何と世界一位の栄誉に輝いてましたし、昨年の選出では第四位の地位を保ちました。つまり日本より欧米を中心とした世界の映画関係者がこぞって昭和二十八年発表、七十年前の作品「東京物語」と小津安二郎を世界一と認めている現実があるのです。

今年是小津さんの生誕百二十年、没後六十年の節目に当たり、世界では盛り上げる事でしよう。ロンドン・パリ・ニューヨーク、カンヌ、ベネチア、ベルリンなど世界的な国際映画祭を催す各都市では、二十年前の生誕百年、百十年の時も大々的に小津映画祭を開催し日本より遥かに盛大でした。

そこで本題に入ります。日本でも松竹映画が東京で、小津さんゆかりの鎌倉、長野の蓼科、広島尾道他で映画祭が催される予定ですが、小津輩出の三重県でも昨春秋に松阪、伊勢、津各市が中心となって「小津安二郎生誕百二十年三重連絡協議会」を立ち上げました。三市を中心に桑名、鈴鹿、亀山、伊賀、志摩、尾鷲、熊野、大台、美杉、紀北の各市町でも我々の呼びかけに応じて下さり小津映画祭を実施します。その一番手として、来る六月十七日（土）午後十二時三十分開演の公演を開催し、秋九月二十三日（土）には例年通りの映画祭を下記の要項で催します。いずれの会場も先着順で入場無料です。

ぜひとも本誌を読まれた拙堂会々員諸氏に足をお運び賜りたくご案内を申し上げます。

記

映画祭（二回）の概要について

（一）「小津安二郎生誕百二十年記念映画祭」

— IN 三重 —

とき 令和五年六月十七日（土）

十二時半開演

（午前十時半より先着順にて整理券配布）

ところ 三重県文化会館中ホール

女優中井貴恵さんによる朗読劇『音語り…秋刀魚の味』及び映画『秋刀魚の味』上映

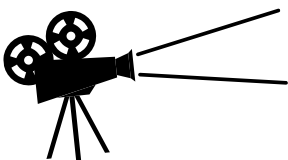
（二）「第九回彼岸花映画祭 IN 津」

とき 令和五年九月二十三日（土）

十二時半開演

ところ 三重大学三翠ホール

兼重直文三重大学名誉教授による映画コンサート及び 映画『東京物語』上映



「東の良齋、西の拙堂」

「東の銘菓「ごんさい豆」対
西の銘菓「せつどう？」」

森永 昌雄

江戸時代人は、多くのジャンルにおいて大相撲のような番付表を作って楽しんでた。その一つに「儒者番付」がある。明治に入り日本の実証主義史学の祖、重野安繹しげのやすつぐが作った儒者番付表には「東の大関、安積良斎あさかこうさい、西の大関、齋藤拙堂」とある。因みに大関は今なら横綱で最高位だ。

ここにある東の安積良斎は福島県郡山市の山身だが、郡山には彼を記念する「ごんさい豆」なる銘菓がある。嘉永五年創業、東北の老舗菓子店「柏屋」はJR郡山駅に近い場所にあり、店の人気銘菓「薄皮饅頭」は日本三大饅頭に数えられる。同店の商品に「ごんさい、豆」がある。炒り豆にきな粉としそをまぶした素朴な豆菓子だ。郡山が生んだ幕末の偉人安積良斎を後世に伝えたいとの願いから生まれた商品なのだ。

片や西の大関拙堂には、津の刀根製菓が拙堂の『月瀬記勝』に因んだ「梅干し」という銘菓をお祖父さんの代から続けている。だが、直接拙堂の名を冠した銘菓はない。

良齋と拙堂はほぼ同時代に活躍した学者だが、

二人の学風は近く、親交があった。ここで両大関の比較を試みよう。

拙堂は十四歳のころ寛政の三博士と謳われた昌平しやうへい塾の教授、古賀精里に入門し刻苦勉励して二十三歳のときに、津藩校の学識(句読師)に採用され、三年後には講官(教授)に昇進、更に藩主藤堂高猷とうどうたかぎの侍読を兼ね、その参勤交代に随行して隔年、江戸に出府し天下の名士と交わった。一八四四年、四十八歳で津藩校有造館の督学(学長)に就任し、津藩を天下の文藩たらしめるとともに、幕末多難な藩政に指導的役割を果たした。五十九歳のとき幕府から昌平塾の教授に迎えたいとの内示があったが、拙堂は藩の恩義とくに主君高猷公の温情から、病気を理由に辞退した。

良斎は拙堂より六歳年長で、十七歳にして志を立て江戸に上り佐藤一斎に従学、後に林述斎に学び江戸の大家となった。四十六歳の時に二本松藩の藩儒となり、その後、藩校の敬学館の教授に就き、一八五〇年六〇歳で昌平塾の教授に採用された。明治の近代化を推進した主要メンバーの殆どが良齋の門人帖に名を連ねており、それは壮観である。

二人はともに文章に優れ、且つ多様な価値観を認め、実用の学を重んじ海外事情にも詳しいという共通点があった。天保の頃を中心に、饑饉対策や阿片戦争時期の国防について、ともに、渡邊華山が主宰する「尚齒会しやうしかい」に参加して、そ

れら時事問題を共同研究した。また、詩文についても「海鷗社」の会友として切磋琢磨した。

とくに両者は、紀行文作家としても知られ、拙堂の『月瀬記勝』と良斎の『遊豆紀勝』は名文の双璧とされ、また天下の名文家として拙堂の『拙堂文話』、良斎の『良斎文略』は圧巻と言える。また両者は、漢学に拘らず洋学への関心も高く、拙堂は『海防策』『輜軒書目しゆけんしむ』を、良斎は『洋外紀略』を著した。

時は移り、二百年以上を経た二〇一二年(平成二十四年)、郡山安積国造神社会館にて、拙堂の玄孫、齋藤正和氏と、良斎の父安藤親重九世の孫、安藤智重氏が百名の参加のもと対談を実現させた。(対談集『東の良斎、西の拙堂』は『歴史春秋社』より出版されている)

かつて津藩は、江戸時代全国二六〇余藩の中、齋藤拙堂らの活躍で天下の文藩として名を馳せた。しかし、第二次大戦後は中学高校で漢文という教科がなくなり、現在では津市民でさえ拙堂の名を知る人は稀である。対して、郡山市には上記神社内に立派な良齋記念館があり、銅像もある。

津に歴史資料館さえないのはどうしてであろうか。事実、津の観光巡りで城跡を見終えた観光客から津藩の歴史資料館の場所を尋ねられ、答えに窮すると聞く。ここは、文藩の復活を図るべく津市行政には【歴史資料館】の開設を是非お願いしたい。

津に、偉人藤堂高虎を称える「高虎ドッグ」があるのは大きい。先賢齋藤拙堂を忘れないためその名を冠した名物ができないだろうか。「ごんさい豆」ならぬ「拙堂スイーツ」や「拙堂パイ」などができたらいいなおもつのだが。

令和四年度

齋藤拙堂顕彰出張講座

齋藤拙堂顕彰会では津市の偉人齋藤拙堂を広く知って頂くことを目的に令和元年度から出張講座を開催しています。特に齋藤拙堂は津藩有造館督学として藩の文教に多大の功績を残しただけでなく、全国的に著名な学者・文人であり、幕末激動期に経世家としても大きな役割を果たした歴史的人物でもありました。

こういった齋藤拙堂の偉業を子供たちに知ってもらふことと共に学ぶことの大切さと郷土愛を深めることを目的とし講座を実施しました。

一 開催実施

開催日時 令和四年十二月十六日（金）

十三時四十五分～十四時三十分

開催学校 養正小学校

対象 六年生

参加数 四十名

二 内容

① 校長挨拶

② DVD放映（齋藤拙堂とは）

③ 講義 齋藤拙堂が学んだこと

齋藤拙堂玄孫 齋藤 正和
（計四十五分）

三 今後の課題

コロナ禍で二年間は出張講座の依頼がなく残念であったが、四年度は養正小学校のみであったが実施が出来ました。

養正小学校は創立百五十周年でもあると同時に津藩校有造館のルーツでもあり時を得た有意義な講座でありました。

反面、まだまだ学校の先生方も知らないのか、PRが足りないのか、学校からの要請が校にとどまり、PR活動を含め方策を新たにしていきます。



拙堂肖像画の伝達

本事業については、津市教育委員会が小学生向けビデオの作成に伴いホームページで見られることから、更に子供たちに知って頂くことが大事であり継続していきます。



養正小学校体育館

第七回 齋藤拙堂顕彰

俳句・短歌

第七回齋藤拙堂顕彰会に於きまして俳句、短歌を応募しました処、俳句四十五名、短歌二十四名、俳句百九十三句、短歌九十五首の応募がありました。それに今回は漢詩も一篇ありました。十二月二十一日選考委員会の結果、次の作品俳句十四名、短歌十四名が選ばれました。表彰式は三月十九日津市中央公民館で行われ、詩吟朗詠会の皆さまにその作品を吟詠して頂きました。

俳句の部

山崎 満世選

津市市長賞

白髪の母に三多氣の花吹雪

津市 森川 恵里子

選評

櫻はとくに老いると、しみじみとするもの。白髪之母にあと何年この花を見させてあげられるのかと、作者の思いが募る。白髪も花吹雪もまぶしく太陽に光っている。

津市議会議長賞

経ヶ峰から投網したかや鰯雲

津市 山岸 芳樹

選評

経ヶ峰から投網したのだろうか。たくさん鱗が空にどこまでも、ひしめいている。秋天の鰯雲をみての大きな感慨。作者はさしずめ仙人の気分。

教育委員会教育長賞

拙堂の警世告ぐる虫時雨

津市 宇野 克弘

選評

虫が鳴いて止むことはない。これは警世を告げる先生の声ではないか。だんだん激しさを増す。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

拙堂の知恵を借りたき秋深む

津市 青木 千恵子

選評

いろいろ今の世の中をみたり、また己の生きざまを見て、なんてぶざまに生きているのだろうか。いまこそ拙堂先生の知恵が借りられたらと思う。秋深むの季語が作者の思いを深める。

佳作

しやご馬の残す酒の香秋麗あきうらら

津市 櫻木 博文

残されしはたけ一枚梅の花

津市 森田 晴子

花時の夕日隈なく自習室

津市 池田 容子

夕風や浚漂船の鈍き音

津市 安部 修

老いてなほ学べや学べ冬紅葉

津市 田中 亜紀子

父母の背な遠ざかりゆく秋の暮

津市 柘植 欽也

隊列を組む如麦の芽の立ちぬ

津市 葛山 則子

早晩の海面曳き行く鰯網うなも

津市 小林 美智子

蛙塗りて全き空となりけり

津市 奥山 功

石路の花入徳門にたはむる子

津市 内田 寿子

短歌の部

三芳 公子選

津市長賞

入徳門文藩の威を残しをり

園に満ち充つ春禽の声

津市 大江 多津子

選評

藩校有造館の入徳門はお城公園に移築されている。今なお朱の色をとどめる門はかつての威を残している。文藩とたたえられた津藩の多くの俊英たちがこの門をくぐって学んだ。春になれば鳥たちの声が園にみち懐旧の思いをさそう。入徳門に立った作者の思いが格調高く詠みあげられている。

津市議会議長賞

藩校の跡地に立ちて口ずさむ

その名を継ぎし母校の歌を

津市 山本 啓子

選評

津市立養正小学校は藩校有造館の跡地に立っていた。跡地に立って懐かしい母校の校歌を口ずさむとかつての藩校の文藩としての教育理念が今なお子どもたちにうけつがれていることに作者は深い感動を覚えるのだろう。母校や子どもたちによせる思いが素直に詠まれている。

津市教育委員会教育長賞

安濃津と昔よばれし港あり

内海出づれば碧き海原

津市 谷口 久美子

選評

安濃津の港は古く内外航路の重要な港として、博多津、坊の津と共に三津と呼ばれた。明応七年の地震の大津波によって壊滅状態となり港としての機能は失われたが、外海に出れば青い海原が広がっている。昔も若者たちは大望を持って海原へ出ていったことだろう。

津の歴史を詠みスケールの大きい歌。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

孟冬の香のただよふ拙堂墓碑

一對の松供へられたり

津市 岡田 正信

選評

冬のはじめの凜とした空気の中拙堂墓碑にはお香のかおりがただよい、一對の松が供えられている。気品のある松はあたかも拙堂の業績をたたえているようだ。品格のある歌。

佳作

落ちのびし維盛が墓ひぐらしの

呼び合う声に今日もつつまる

津市 前川 加代

「しまかぜ」はもう行ったかと問ふ妻は

鎌の刃洗ふ夕日背にして

津市 山岸 芳樹

境内に「抜苦与楽」の地藏尊

対座しませり桐の花咲く

津市 岸本 幸子

傘を打つ雨おとにこゑ聴きながら

ながく掌合わす拙堂墓石に

津市 西村 淑子

こつこつと空山一路行きつけば

我を待ちたる人はいるらし

津市 山岸 美智子

畦塗りて田と田をつなぐ水に山

暮れて一枚づつ月登り来ぬ

津市 奥山 功

寒稽古若さみなぎる演武荘

したたる汗に明日を担う眼

大津市 森永 昌雄

阿漕浦二艘競ひてヨットゆく

晩夏のひかり反照しつつ

津市 鏡 康男

はさがけの実り豊かな稲穂あり

一志の風のおいの風だ

津市 森田 晴子

この地から戦に飛びて魂となり

香良洲の土に眠りたまえる

津市 藤井 紀美子



拙堂先生を讃える

土井 真次

安眠永住は太平の基
異国の軍船靖綏を破る
弄筆潘書世事を談ず
儒経博究拙堂師

第六回齋藤拙堂顕彰 小中学生書道展

新型コロナウイルス発生・感染の為中止となっていた小中学生書道展も、各位のご協力により三年ぶりに開催いたしました。今回は小・中学生から予想外の総数六五七点もの応募を頂き無事・盛大に開催出来ました。出品者、保護者の方はもとより、一般の方々にも大きな関心を抱いて頂き、最終日の表彰式には、会場に入れないほどの参加者を得ましたことは拙堂会として望外の喜びでありました。心よりお御礼を申し上げます。入賞者の方は後記のとおりです。

来年の第七回展は令和六年三月八日(金)から十日(日)の日程で開催することが内定していますのでその時には又、多くの方の応募を期待しています。

「太平の眠りを醒ます上喜選(お茶(蒸気船)たった四杯で(四隻)で夜も眠られず」ペリーが軍艦四隻で浦賀へ入港のこの戯歌が流行して幕末の頃朝野をあげて開港と鎖国の争が凄惨を極めた。津藩儒拙堂先生は世情をわきまえ学問を教え詩文など種々書き与え心を静めさせた。

今回の展覧会において、役員・展覧会担当者の皆様には時世柄、大変出にくい時期に、展示準備、会場当番、搬出後片付け等に格別の御協力をいただき改めて厚く御礼申し上げます

最後に、会期中、何かと不備な点が多く皆様方に変えて迷惑をおかけしました事、心よりお詫び申し上げます。

稲垣 武嗣



小学生の部

津市長賞

森本季依奈

四日市市立常磐西小学校三年

津市議会議長賞

長谷川瑛理

津市立新町小学校六年

津市教育委員会教育長賞

山下 絢音

津市立戸木小学校五年

中日新聞社賞

松本 美由

松阪市立漕代小学校一年

山本 花

三重大学教育学部附属小学校三年

須内彩季乃

津市立桃園小学校四年

河口 綾真

津市立片田小学校六年

拙堂顕彰会会長賞

木村 友月

津市立千里ヶ丘小学校一年

山本理衣菜

津市立立成小学校二年

坂井 想彩

津市立南立誠小学校一年

塚田 凜

津市立栗葉小学校三年

濱井 香穂

津市立新町小学校三年

宮崎 美織

津市立北立誠小学校四年

今西 結菜

津市立南立誠小学校五年

特選

下村 優希	桑名 佑京	安田 千紘	海野 仁美	濱田 乃愛	高島由衣乃	村主 佳穂	丸山 江子	米澤 咲希	濱口 史緒	田中 莉橙	江川 綾咲	日名子陽葵	内田 汐音	小林うらら	西 真奈花	大塚 心華	浅野 夏帆	村主 知穂	内山いずみ	海野 彩美	池畑 桃	永田 葵	松原 由歩	福路 心奏	福本 兼進
鈴鹿市立玉垣小学校六年	三重大学教育学部附属小学校六年	津市立北立誠小学校六年	三重大学教育学部附属小学校六年	津市立豊津小学校六年	三重大学教育学部附属小学校六年	津市立村主小学校六年	津市立南が丘小学校六年	津市立新町小学校五年	津市立立誠小学校五年	津市立成美小学校四年	鈴鹿市立栄小学校四年	津市立千里ヶ丘小学校四年	松阪市立掃水小学校三年	鈴鹿市立郡山小学校三年	鈴鹿市立郡山小学校三年	津市立新町小学校三年	津市立豊津小学校三年	津市立村主小学校三年	津市立南立誠小学校二年	三重大学教育学部附属小学校二年	津市立豊津小学校二年	三重大学教育学部附属小学校二年	三重大学教育学部附属小学校二年	津市立新町小学校一年	松阪市立第四小学校一年

中学生の部

宮崎 彩音	豊田 小陽	日名子陽愛	中條 友翔	津市立北立誠小学校六年	松阪市立徳和小学校六年	津市立千里ヶ丘小学校六年	津市立南立誠小学校六年
津市長賞	河口 絢香	津市立西郊中学校二年	津市議会議長賞	平手 綾華	津市立久居東中学校一年	奥山実莉亜	津市立久居中学校二年
津市教育委員会教育長賞	中日新聞社賞	松本 実華	高橋 愛果	津市立西郊中学校一年	松阪市立東部中学校三年	堀 柚葉	津市立西郊中学校一年
齋藤拙堂顕彰会会長賞	市川ひなの	津市立西郊中学校二年	新居 奈々	津市立西郊中学校三年			

特選

松本 咲良	今井 柚希	岩本 姫依	内田瑠莉香	矢古島 悠	松村 彩葉	豊田 彩葉	中川 華恵	山本 涼太	金田 小春	大坂 美結	横山結依子	松本 朱理	松阪市立東部中学校一年	鈴鹿市立平田野中学校一年	鈴鹿市立千代崎中学校一年	鈴鹿市立千代崎中学校一年	津市立南が丘中学校一年	松阪市立中部中学校一年	松阪市立久保中学校一年	松阪市立東部中学校一年	私立高田学苑中学校一年	津市立西郊中学校三年	三重大学教育学部附属中学校三年	津市立西郊中学校三年
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-----------------	------------



第七回齋藤拙堂顕彰

吟道大会開催

令和五年三月十九日(日) 津センターパレス
二階、中央公民館ホールに於いて、第七回齋藤拙堂顕彰吟道大会が主催・津市吟剣詩舞道連盟、共催・津市、後援・齋藤拙堂顕彰会によって開催されました。



前葉泰幸津市長他来賓の方々のご出席を賜り、ご挨拶の後、俳句短歌の表彰が行われ、選者好評の後、受賞八作品が朗詠されました。

受賞者の方からは作品が朗詠で披露されたことに大変感激を受けて戴きました。

大会は加藤龍宗先生企画構成による「齋藤拙堂の江戸の街に花を尋ねる」と題した構成吟を始め、会員の吟詠・舞が演じられ盛会裏に終わることが出来ました。

拙堂顕彰会受賞の喜び

書道展の部

書道展で(第六回書道展)入賞されました、小学生・中学生の皆様の喜びの声を掲載させていただきます。

小学生の部

津市長賞

森本 李依子(三年生)

私の作品を選んでいただき、ありがとうございます。私は毎日できるだけ筆を持つようになっています。今回、その努力が実りとても嬉しいです。これからもがんばります。

津市教育長賞

山下 絢音(五年生)

先生に全体の文字のバランスや筆の動きや字のつながりなどいつも分かりやすく教えていただきました。毎日練習をがんばったので賞をもらえてうれしいです。もっと上手に字が書けるようになりたいです。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

木村 夕月(六年生)

しゅう字をはじめてまだはん年ですが、しゅ

うをもらえてうれしかったです。
しょうじょうをもらうとき、きんちょうしました。

齋藤拙堂顕彰会会長賞 濱井 香穂（三年生）

私は、賞にえらばれて、びっくりしました。そして、とてもうれしくなりました。
これからも、もっと字が上手になりたいです。

中学生の部

津市長賞

河口 絢香（二年生）

津市長賞という大賞をいただき、大変嬉しく思っております。六歳の時から習字を習い始め、小学六年生の時に八段になりました。このような賞をいただく度にまた頑張ろうという意欲がわいてきます。これからも更なる上達を目指し、練習にはげみたいと思います。

津市教育長賞

奥山 実莉亜（二年生）

去年も「月ヶ瀬記勝」と書き、今年のはのびと気持ちよく書けました。二年目の挑戦だったので、受賞できて大変嬉しかったです。

齋藤拙堂顕彰会会長賞 市川 ひなの（二年生）

私は冬休みの間毎日のように習字教室に通い練習していました。だから、入賞したことを知らされたときは、驚いたし、なにより結果が出せたのと努力が報われてとてもうれしかったです。これからも良い結果が出せるように頑張りたいです。

俳句の部

津市長賞

表彰式にて

森川 恵里子

吟詠を初めて聞かせていただき庄巻でした、言葉の一つ々が真っ直ぐ心の中に入ってきて心が揺れ広がり大きな空間の中にいました。

又、尺八との共演が美事で私の句が別の生き物になった気がしました。

挨拶の中で中学生の習字の月という字を見ていると字が明るく照らす月に見えてくる等の話をされました、私は絵を見ていると音が聞こえてきます、吟詠は心に強く響く事を知りました。

私は文化会館での俳句講座で小泉美炎先生そして熱心な仲間達と月一度の句会を楽しんでいます。

本日は日常では味わえぬ素晴らしい体験ができました事、又、齋藤拙堂先生のお名前も今回知る事ができ勉強させていただきました事感謝いたします。

児玉龍笙先生のお声、石野真風先生の尺八の音色の余韻をしばらく楽しめそうです。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

会長賞を受賞して

青木 千恵子

この度は、齋藤拙堂顕彰会会長賞受賞の栄を賜り、ありがとうございます。

私は、「拙堂の知恵を借りたき秋深む」の句で入賞いたしました。

今の昏迷の世に、拙堂先生が御在世ならば西洋の文明、地政学的国防、高邁な思想によって、どのように説明して下さるだろうかと考えます。こんな世にこそ、居て下さると、世界中が助かるのにも思います。拙堂先生も一日も早い世の平穏を願って下さって、いるものと思います。吟詠会場でまたも思いを新たにしましたことでした。



短歌の部

津市長賞

拙堂顕彰会受賞に寄せて

大江 多津子

この度は身に余る賞を戴き誠にありがとうございます。
ございました。

会場にて私の歌を朗々吟詠ひびき胸が熱くなりました。

拙堂先生のこととは知る機会もなかったのですが友人から資料をお借りし縁の地を案内していただき漢詩に触れる機会を得て少し先人の功を教わりました、今回の歌は津お城公園の入得門の前に立ちました時小鳥の囀りで公園が膨れ上がり門の奥から藩校の血気盛んな学生さんの声が聞こえ？授かった一首です。

拙堂先生は郷土愛のもと文武両道の偉業を成され、その遺徳を顕彰し後世に又身近な人達に伝えていかないと…と思いを新たにいたしました。

拙堂顕彰会のますますの発展を祈念しお礼のことばとさせて頂きます、ありがとうございます。

朗々と吟じ起こさる祝くの歌

二タ重虹立つ拙堂大会

拙堂顕彰会会長賞

会長賞を受賞して

岡田 正信

まずは、私の拙い短歌を取り上げていただき
ました選者の三芳公子様、そして表彰式では自
分の歌とは思えないほど声高々、朗々と格調高
く吟じていただきました津市吟剣詩舞道連盟の
奥田南山様に厚く御礼申し上げます。何分吟詠
を聞くのは初めてのことで大変感動しまし
た。

また、齋藤拙堂顕彰会会長のお話によりまし
と、過去に津にも天然痘が大流行した際、拙堂
は本業とは別にその防疫の為津高の前身である
藤堂藩の藩校、有造館に種痘館を置き自分の娘
から率先して種痘を施し、民の病気蔓延を防い
だとお聞きました。

昨今は滅私奉公という言葉も影が薄くなり、
だれもが自分中心の世の中になっているような
気がします。コロナ禍の今と重ねて感慨深いも
のがあります。

実を言いますと津に住みながらも今まで全く
齋藤拙堂のことを知りませんでした。が顕彰短歌
を通してそのようなことを知り、また良い経験
をさせていただきました。ありがとうございます。

拙堂塾、特別企画、
拙堂の足跡を訪ねて

拙堂塾が養老・「千歳楼」等「拙堂の足跡を訪
ねて」とバス旅行が開催されました。齋藤正和
講師を始め三十数名の参加があり大変好評で充
実した塾となりました。

齋藤拙堂顕彰会養老・大垣へのバス旅行に参加して

西川 幾子

去る四月十六日の快晴の中、齋藤拙堂顕彰会
に参加させて頂きました。

拙堂先生の宿とされた「千歳楼」にて、俳句・
短歌の発表会があり。俳句の部で、思いも掛け
ず賞を頂き驚きと嬉しさで一生涯忘れれる事の出
来ない感無量の思いで一杯でした。

迫り来る滝の轟音、滝壺の偉大さに圧巻でし
たその時の思いが一句となりました。

お世話になりました山崎先生の審査の下、各
諸先生方の吟詠で誠に有り難く感謝の気持ちで
胸の熱くなる思いでした。

昼食後「芭蕉館・先賢館」「華溪寺」「お千代
保稲荷」(参拝)にて、暫し膝の痛みも忘れる程
の実のある一日となりました。

次年度は「京都」方面を予定されているそう

です。ので出席したいと思います、好天に恵まれ清々しい気持ち良い旅となりました。

拙堂塾の旅の思い出

木崎 真陽

初めに、今回のバス旅行を、天気にも恵まれ心ゆくまで楽しませて頂けたことに感謝申し上げます。

思い出を三点にしぼって話を進めさせて頂きます。

一つ目は訪れた自然に特別に感じいったことです、先ずは「水」が大変すばらしかった、舌ざわり柔かく滑らかな飲み水はおいしかった、養老の水、大垣の水は特別の味でした。土地の自然も豊かさにあふれていました。やはり広葉樹の木々が多く印象に残りましたし、岐阜の地の力を街全体から感じとることも出来ました。数十年前の印象とは、私が年をとったからなのか、大きな違いに見えました。

二つ目は拙堂先生との接点、梁川星巖ゆかりの曾根町の華溪寺を再訪出来たことです。同寺住職から直接さまざまなお話を聞けたこと、思いがけないご縁とよろこびを感じました。ご住職も拙堂先生に対する思いもあった様で迫真のご対応だったと思います。又、併設の記念館も以前に訪れた時の内容より、更に充実した内容となっており大変感動いたしました。星巖の力強い勤王

への理解、又、心を共にした多くの同志への影響力の強さに触れ、思いを新たにしました次第です。

三つ目は初めて訪れた、奥の細道むすびの記念館を見学出来たことです。最新の3D映像での芭蕉の旅の紹介、その内容は新たな視点を意識したすばらしいものでした。芭蕉は大垣を人生の最終地点に選んだのではないかとさえ思われるように門人に囲まれて「以って瞑すべし」の心境だったと思います。

終りにあたり、本当に贅沢な旅をさせて頂きましたこと、旅を終始リードいただいた関係の皆様方に心から御礼申し上げてペンをおかせていただきます。

俳句・短歌を詠まれ、次の十句が選ばれ、千歳楼にて朗詠により発表されました。

俳句

大瀑布天上天下寄せつけず	西川 幾子
光り合ふ奇岩遠目に初音聞く	西川 幾子
滝風に踊る草木あもしろき	西沢 博子
新緑の水音高く沁みわたる	佐々木政彦
桜しべ払ひベンチの母子かな	池田 容子
若葉映え孝子の霊気沁みわたる	高田 峰昭
鶯や声を聞きたる滝の音	畠山 岳祐
滝しぶき新緑に聞き一息つく	上島 正明

短歌

緑なす美濃路は久し川面見え

滝の流れに夢の跡追う

細谷 正吉

いにしへに酒に変はりし水なれど

今は清流とうとうと

内藤 華博



令和五年度拙堂会総会報告

令和五年五月十四日（日）アスト津・橋北公民館会議室において、第七回総会が開催され、各議題が満場一致で可決されました。以下、これを要約して報告します。

令和四年度事業報告

- ・拙堂會報 第十二号令和四年六月一日
- ・第十三号令和四年十二月一日発行
- ・齋藤拙堂顕彰出張講座の実施
（講師 齋藤正和顧問）
養成小学校にて令和四年十二月十六日に開催
小学生三・四年生むけ社会科改定副読本に齋藤拙堂について記載された。
- ・拙堂塾の開催（講師 齋藤正和）
場所 橋北公民館会議室
- ・第八回「茶磨山莊詩」六月二十六日・第九回「正境界議」七月二十四日・第十回「拙堂文話」八月二十八日・第十一回「拙堂伝構想・骨子」九月二十四日・第十二回「拙堂の歩いた道大垣・養老編」十月二十三日・第十三回「南游志（紀伊半島一周文志）」十一月十二日・第十四回「南游志の漢詩」十二月十七日開催
- ・野外講座の実施について
養老大垣バス旅行（令和四年十月）は四十名

の参加申込があったが、新型コロナウイルス感染者が増加してきたため令和五年四月十六日に延期した。

- ・齋藤拙堂顕彰会「第七回俳句・短歌」の募集を令和四年十月一日～十二月十日に実施（本紙7～9頁をご参照ください。）
- ・齋藤拙堂顕彰会「第六回小中学生書道展」作品募集十二月一日～一月十五日（本紙9～10頁をご参照ください。）
- ・作品展示会は令和五年三月三日から五日・表彰式は令和五年三月五日に実施
- ・齋藤拙堂顕彰第七回吟道大会と俳句・短歌の表彰式は、令和五年三月十九日津中央公民館で開催され、俳句・短歌の入賞作品が吟詠した。（本紙11頁をご参照ください）
- ・インターネット「齋藤拙堂顕彰会ホームページ」を更新した。
- ・齋藤拙堂著作の漢文・漢詩・古文の翻訳事業は、「齋藤拙堂先生小傳・年譜」「南游志」を発行した。
- ・新規事業の取組とした「郷土資料館の設立」活動は新型コロナウイルス感染の増加のため活動中止した。
- ・会員増強については、事業の拡大・新規事業の取組等必要な資金調達を目的に会員の増強に取り組み、期末には団体三十九社（十二社増加）個人一七六人（十七名増加）となった。

令和四年度決算報告及び監査報告

決算報告

収入合計	一、六一一、三三九円
支出合計	六八三、六八九円
事業費	五四二、一〇六円
運営費	一四一、五八三円
繰越金	九二七、六五〇円

監査報告

会計は適正に処理されている。

監事 國分昭男・米田堯光

令和五年度事業計画

- ・拙堂會報発行 令和五年六月一日第十四号
令和五年十二月一日第十五号
- ・齋藤拙堂顕彰出張講座の実施
- ・拙堂塾の開催（講師 齋藤正和顧問等）
場所 橋北公民館会議室
第一回令和五年六月十日
「拙堂の遺著―学問・芸術―
以後順次開催の予定
- ・拙堂塾野外講座「養老大垣へのバス旅行（令和五年四月十六日実施）」
- ・養老千歳楼（昼食）・奥の細道むすびの地記念館・華溪寺梁川星巖記念館見学
- ・齋藤拙堂顕彰会「第八回俳句・短歌」の募集
令和五年十月一日～十一月三十日

・齋藤拙堂顕彰会「第七回小中学生書道展」作品募集

令和五年十二月一日～令和六年一月十四日
書道展

令和六年三月八日～三月十日 リージョンプラザ

・齋藤拙堂顕彰第八回吟道大会と俳句・短歌表彰式

令和六年三月十七日

場所 中央公民館ホール

・インターネット「齋藤拙堂顕彰会ホームページ」の更新

・齋藤拙堂著作の漢文・漢詩・古文の翻訳事業
齋藤正和顧問を中心に活動する。

・津市に郷土歴史博物館の建設推進活動
飯田理事長を中心に活動する。

令和五年度予算

収入合計	一、九三三、六五六円
支出合計	一、三八五、〇〇〇円
事業費	一、一七〇、〇〇〇円
運営費	二二五、〇〇〇円
繰越金	五四八、六五六円

会員の増強に関する件

事業の拡大・新規事業の取組などに必要な安定した資金の調達を目的に、会員の増強に取り

組みます。（目標 団体総数四十五先五十口、個人総数二〇〇人二五三口）

理事・監事役員の改選

任期二年満了による理事・監事を改選しました。全員再任となりました。また事業の円滑な運営を図るため、理事（広報）一名を増員しました。

会 長	加藤 龍宗
理 事 長	飯田 俊司
常務理事	安村久仁男（会計）
理 事	種田 真山（総務・企画）
	水谷 忠文（総務）
	稲垣 武嗣（書道展）
	小川 直紀（書道展）
	林 朝子（書道展）
	藤貴 静扇（広報）
	小林 貴虎（広報）
	伊藤 誠司（広報）
	村主 英明（広報）
	田矢 修介（広報）
	荒木 康行（広報・会員募集）
	山崎 満世（俳句）
	澤口 真理（漢文翻訳）
	高岡 弘典（漢文翻訳）
（新任）	志田 行弘（広報）

選 者	三芳 公子（短歌）
監 事	國分 昭男
顧 問	米田 豊山
	前葉 泰幸
	伊藤 歳恭
	齋藤 正和
	中川 禎二

ご報告

（公財）日本吟剣詩舞振興会という吟詠・剣舞・詩舞の愛好者にとつては権威ある全国組織があります。

その会より毎年「吟剣詩舞道吟詠集」としてCDが発売され、全国剣詩舞コンクール指定吟題となり、全国の多くの人々が目に、耳にします。

令和五年度のCDに齋藤拙堂作「芳野」が入っていました、齋藤拙堂の名が多くの方々に知っていたたく機会を得、大変嬉しく思います。